

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



2016~2017年度 No.211

8月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界

強調月間：CS

那須ワイズメンズク



7月(キックオフ・部長公式訪問)例会 7月28日(金) 於：西那須野教会

2017~2018年度 主題
 国際会長：(IP) Henry J Grindheim (ノールウェイ)
 「ともに、光の中を歩もう」
 アジア地域会長：(AP) Tung Ming Hsiao(台湾)
 「ワイズ運動を尊重しよう」
 東日本区理事：(RD) 栗本 治郎(熱海)
 「広げよう ワイズの仲間」
 北東部長：鈴木 伊知郎(宇都宮東)
 「距離に負けるな北東部、各クラブの個性を磨きましょう」

クラブ役員 事務局
 会長：田村 修也
 副会長：村田 榮
 河野 順子
 書記：内海 研治
 会計：村田・鈴木
 担当主事：内海 研治
 ブリテン：田村・村田

7月例会データ(出席率：66.7%)
 在籍者 6名
 例会出席者 4名 メネット 1名
 ゲスト 1名

今月の聖句
 傷ついた葦を折ることなく、暗
 くなっていく灯火を消すことな
 く、裁きを導き出し、確かなも
 のとする。

イザヤ42：3

8月 Happy Birthday

なし

巻 頭 言

8月が来るたびに

会長 田村 修也

今年も8月を迎えました。戦後72年目の8月です。「八月や六日九日十五日」の言葉は心に刻まれています。那須ワイズの会長をし、北東部長をなされた故一木慎司兄は、学童疎開先の愛媛で対岸の原子雲を見たとき生前教会の集まりで証をしてくれました。西那須野教会でも8月を平和月間と定めて、様々な取り組みを今年もいたします。

今公民館での活動として、毎週金曜日の午後2時から「懐かしい歌を歌う会」を行っています。その歌集の1冊の中に、原爆をゆるすまじ、死んだ女の子と共に「長崎の鐘」があり、その下に四竈 掲先生の「平和を実現する」という証を載せました。決して忘れてはならない言葉ですので紹介します。

平和を実現する。8月を間近かにすると私は広島の前爆の地獄絵を思い起こします。原爆を造り、それを広島、長崎の両都市に投下したのはあくまでも他者を抹殺しようとする人間の悪魔性の現れ「人間の罪」に他なりません。私は1945年8月6日の朝、広島市役所の周囲の取り壊し家屋の跡片付けに中学2年生の同級生と共に動員されました。作業の始まる十数分前、そこから中学校まで教師の命令で「伝令」にゆかされたため、万死に一生を得ました。市役所の周りで作業に取りかかっていた学友たちは教師を含めて二百数十名、全員が亡くなったのです。戸外で半裸で作業を始めた中学生たちは原爆の熱線で瞬時に大火傷を負ったのです。火傷をしたまま中学校まで走って帰って来た数名に出会った私は声を呑みました。特に頭は二倍か三倍にふくれあがり、まさに「海坊主」のようになっていたからです。顔も火ぶくれしていますので、名前を聞くまで誰が誰だかわかりませんでした。

広島を中心部からほとんど同時発生的に火事になり、逃げ遅れた多くの人々が炎に包まれました。倒壊した家屋の下敷きになって逃げることのできなかつた人たちの、丸太棒のようになった死骸を、翌日から何千何百と見ながら家族を捜しました。その後も被爆者たちは長い間「原爆症」で苦しめられているのです。秋葉忠利広島市長と田上富久長崎市長が「核不拡散条約」「NPT」再検討会議の準備委員会で演説したことが先日報じられました。またオバマ米大統領が「原爆を投下した米国の道義的責任」に言及したことは漸く「核兵器廃絶」に向かって世界の動きが始まったとの印象を強くします。ところで長年・・・「マイノリティ（少数者）では何の力にもならない」という言い訳のもと

に平和への取り組みも消極的だったように思います。しかし「平和を実現すること」も小さな一歩から始まるのです。私たちの周囲から、私たちの国から「平和」への努力を推し進めたいと思います。人間の相互不信と憎しみの源には他者抹殺の心理があり、それが「核戦争」に繋がっていることを銘記したいからです。ワイズの国際憲法とガイドライン第2条綱領と目的第3項Cに市民的、国際的諸問題のただ中で、倦むことなく、一党一派に偏しない正義を追及する。D宗教的、市民的、社会的、国際的諸問題につき、会員達を啓発し、積極的にこれに参加連帯させるとあります。ユネスコ憲章の前文「この憲章の当事国政府は、その国民に代わって次のとおり宣言する。戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という言葉とともに、この時は特に自分の心に刻み付けたいと思います。

7月（キックオフ・部長公式訪問）例会

担当主事 内海 研治

日時：7月28日（金）18：30～20：30

場所：西那須野教会

参加者：田村会長、河野副会長、村田副会長・会計、内海書記・担当主事、田村メネット

ゲスト：鈴木北東部長（宇都宮東）

合計：6名

7月の例会は、鈴木北東部長をゲストにお迎えし、今年度キックオフとなりました。「距離に負けるな北東部」とスローガンを掲げ、現在全てのクラブをまわり、部内の連携を目指している、とお話いただきました。

2019年7月アジア太平洋地域大会が仙台で開催予定ということもあり、より北東部で団結を強めていく方針です。9月9日（土）午後1時半より、北東部会・宇都宮東ワイズ25周年記念式が、宇都宮グランドホテルが開かれます。プログラムの一つとしてゴスペルコンサートを計画。

また、田村会長からは、那須ワイズメンズクラブ2017-2018年間計画をお話いただきました。

特に今年度は聖園老人ホームにてYMCAリーダーによる傾聴プログラムを予定しています。村田会計からは、前年度決算報告、今年度予算案が報告されました。

今回、北東部長鈴木さんとの交わりの中で、信仰についてのお話が印象に残りました。YMCA基本原則には「イエス・キリストにおいて示された愛と奉仕の生き方に学びつつ」とあります。YMCAのCの部

分にある私たちのミッションとは何か、いま改めて問われているように思われました、

7月役員会報告

日 時：7月14日（金）18：30～

場 所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、河野副会長、村田副会長、内海書記、田村メネット

協議事項

1. 7月例会について

7月28日（金）午後6時30分より西那須野教会で開催。キックオフ例会・新年度活動計画、会長方針及び会員の抱負を語る会。時間があればパソコン講座。

2. 第1回北東部評議会について

7月29日（土）午後1時より、とちぎYMCAさくらんぼ幼稚園にて開催。村田が出席する。

3. 新年度計画について

副題は、「高齢化と広域化の意味を問いつつⅡ」とし、①青年のために一例「高齢者施設ボランティア等」②高齢者と家族のために一例「訪問看護ステーションの活動等について」③日本文化の体験「茶道体験Ⅱ」④那須地域の歴史探訪⑤PCワールド「こんなことのできるPCの世界」等々を考えつつ新年度の例会を行う。

4. 8月役員会について

8月4日（金）午後6時30分より西那須野教会にて開催する。

協議内容は8月例会、ブリテンの原稿、その他

5. その他

・北東部報の原稿についての確認。

6. YMCA報告（内海）

・7月22日（土）YMCAの集いの開催。

・九州北部豪雨災害視察報告。

8月役員会報告

日 時：8月4日（金）18：30～

場 所：西那須野教会

出席者：田村会長、村田副会長、内海書記、田村メネット

協議事項

1. 8月（納涼）例会について

8月25日（金）午後6時30分より原田ワイズ宅で開催。内容は、各自持ち寄りで水流麺、じゃがバター、豆腐サラダ・赤飯・かぼちゃの煮物（田村）、ポテトサラダ（鈴木）、ゼリー（原田）。生野菜（ネギ、青始祖、オクラ、みょうが、ピーマン、トマト、玉ねぎ、

にんにく、じゃがいも等）（紙コップ、紙皿）村田。オークションの品物各自持参。その他不足品は購入。参加費1,000円。オークションでの収益金等を東日本区の災害支援に献金する。

準備のためメンバーは、17時原田宅に集合。

今回は塩谷キャンプ場の下見は中止する。

リーダー、YMCAスタッフ、ゲスト等の参加を歓迎。

2. 北東部会について

9月9日（土）午後1時より、宇都宮グランドホテルにて開催。別紙案内あり。

3. 9月例会について

9月23日（土・祝）の昼間開催について、と遠山師との調整を行う。

4. 9月役員会について

9月1日（金）午後6時30分よりココス西那須野乃木店にて開催する。

協議内容は9月例会、ブリテンの原稿、その他

5. その他

・前期会費納入8月15日締め切り。

・パソコン講座

今後の予定

・8月（キックオフ）例会

日時：8月25日（金）午後6時30分～

場所：原田時近ワイズ宅

住所：塩谷郡塩谷町大字田所2490

TEL：0287-45-1544

内容：納涼例会、一品持ち寄り、オークション。

会費：1,000円

・9月役員会

日時：9月1日（金）午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：9月例会、10月（アジア学院バザー）例会、

9月号ブリテンの発行等。

・北東部会（別途案内・宇都宮東クラブ25周年）

日時：9月9日（土）13：00～18：00

場所：宇都宮グランドホテル

会費：6,000円

・9月例会（予定）

日時：9月23日（土・祝）

場所：遠山師宅

第1回北東部評議会に参加

副会長 村田 榮

7月29日(土)午後1時からとちぎYMCAさくらんぼ幼稚園にて第1回北東部評議会が開催された。参加者は、21名。特筆すべきことのみ記載します。

①北東部会が9月9日(土)に開催と同時に宇都宮東クラブ25周年例会を行うことが決議。②エクステンション委員会の設置が決議、7~10名の委員で設置。村田が委員。③第7回ユース・リーダーアクトの開催が決議。今年度はクラブよりの徴収はなし。集まるメンバーも変化なく、新しいメンバーの獲得が大きな課題であるように思う。

旧西那須野(那須西原)の緑と水(53回)

田村修也

那須原疏水ノ儀ニ付嘆願

那須東西両原疏水ノ儀ニ付テハ、数回奉嘆願候儀ニ付、今更蝶々ノ弁ヲ要セズ候得共、那須原ノ永ク荒蕪ニ属シタル所以ノモノハ、地味ノ瘦瘠ニ依ルニ非ズ、氣候ノ寒暖ニ依ルニ非ズ、単ニ水ノ便ヲ欠クニ原因スルヤ明カナリ、故ニ私共、明治九年巳降、疏水ノ事ニノミ焦心苦慮致居候得共、如何セン微力ノ大業ニシテ、此目的ヲ果スヲ得ズ、故ニ先ズ開墾ヲ主トシ、民戸ヲ移シ、其力ヲ増殖スルニ不若ト、去ル明治十二年ヨリ、那須西原ノ内、三千余町ノ地ヲ拝借、開墾起業仕候、実ニ時世ノ然ラシム所カ、西原ニハ、那須開墾社、三島村開墾場、加治屋開墾場、東原ニハ、青木開墾場、埼玉開墾場、東肇耕社、共墾社、那須牧場、深川農場、佐野農場等ノ各社ヲ始メ、四方ノ有志者、皆開荒ヲ目的トシ、続々此業ニ着手スルモノ多ク、十四年ニ至リ、東西両原一万余町ノ地、之ニ連続スル原野数千町、何レモ寸地ヲ余サザルニ至ル。嗚呼盛ナリト謂フベシ。却説、十三年開荒ニ着手スルモ、飲用ニ供ス可キ水利ナク、之ヲ里外ヨリ運搬スルハ、到底行届カザルニ付、深井を鑿掘スルニ、容易ニ其水脈ニ達スルヲ得ズ。冬期ニ至テ潤渴シ、人畜ノ飲用ヲ欠クニ至リ、其困難言フ可ラズ。去ル、十三年九月ヲ以テ、飲用水路開鑿ノ儀奉願候処、翌十四年一月ニ至リ、裁可ノ恩命ヲコウムリ、速カニ着手仕候処、中途ニシテ、資金欠乏、不得止十四年十二月ヲ以テ、資金増額ノ儀奉願、翌十五年十一月ニ至リ、竣工通水ノ式ヲ行フニ至リ、数百ノ移住者、始テ安シ候儀ニ有之、然ルニ遂日移住開荒ニ従事スル者多キヲ加ヘ、僅カニ一条ノ水利ヲ、数条ニ分水仕候故、忽チ其量ヲ減ジ、西原ニ至リテハ、殆ド尽果候仕合。数百ノ移住者、飢渴ニ迫リ候勢ハ、已ニ

御見分ノ通ニ有之、且又当地方人民ハ、固有ノ農事ニ非ザルバ、生活シ難キモノト信認シ、水路開鑿ノ風評ニ依リ、之ヲ目的トシテ、移住セシモノ多く有之、加之客年国道ノ換線ト、塩原新道ノ該原ニ連絡スルト、何レモ、前途大ニ望アルヲ以テ、先ヲ争テ、移住スルモノニシテ、実ニ其要点トスル水路開鑿不相成トキハ、漸次集合シタル数百ノ移民ハ、一朝ニ、他開墾社ヘ、亦以テ瓦解スル外無之、真ニ寸時モ難捨置ニ付、昨十七年五月、其情状ヲ真ニ奉懇願候処、御都合ニ依リ、当分御詮議ニ難被為及旨、御沙汰ニテ、尚熟考仕候ニ、水路平掘之儀ハ、已ニ経験モ相済候得共、隧道数ヶ所ノ上、岩質モ一定セズ、他日御着手相成候節、隧道ノ適否等相試候儀、最急務ト奉存候共、私共ノ資金ヲ以、試鑿ノ儀、客年六月十三日付け上願、七月六日ヲ以テ御指令ヲ得、速ニ着手、工事ハ官ノ御監督ヲ仰ギ、今日ニ至ル迄、掘鑿仕候処、其岩質全量、能ク隧道ニ相適シ、位置其宜シキヲ得。隧道ノ全成モ近キニアラント奉存候処、疾クヨリ資金欠乏致候故、私共微力ノ限り、周旋尽力仕候得共、最早才覚ノ手段無之、ドウシテモ、中止仕候トキハ、移民ノ落膽無限、此レヲ思ヒ之ヲ思ヘバ、心思安カラズ、故ニ、客年十月、續願仕候儀ニ有之候処、未ダ何等ノ御指令無之、日夜苦慮罷在候、実ニ此水利ハ、那須両原ノ浮沈存亡ニ関スル処ニシテ、万一ニモ、御指令御延引相成候トキハ、数百ノ移住者、忽チ望ヲ失シ、十三年以降ノ丹精モ、一朝水泡ニ属シ候仕合、歎ケ敷奉存候間、前件ノ至情御憐察ノ上、特別ノ御詮議ヲ以テ、其御筋ニテ、直轄工事速ニ御着手被成下置度、実ニ此事業成頓ノ上ハ、両原一万町歩ノ曠野ハ勿論、原方郷五十余ヶ村ノ陸田平林トモ、過半善良ノ水田ト成リ、新ニ一郷ヲ現出スルヤ、疑ヲ容レザル処ニシテ、其流末原野四隣百十余ヶ村ノ乾田ヲ湿シ、新田ヲ開墾スル等、真ニ国益ヲ増殖スル漠大ノ儀ト確信罷在候ニ付、此段只管奉歎願候也。

明治十八年二月十三日

下野国那須郡

那須原開墾各社総代

印 南 文 作

矢 板 武

栃木県令 樺 山 資 雄 殿

※ここで、那須原開墾各社の開設者として社名が記されている開墾社の氏名、当時の地位等について記載しておきます。

西原ニハ、

那須開墾社、印南・矢板他・農村指導者
三島村開墾場、三島通庸・県令・警視總監
加治屋開墾場、大山巖・元帥・陸軍大臣
西郷従道・元帥・海軍大臣

東原二八、
青木開墾場、青木周蔵・独公使・外務大臣
埼玉開墾場、吉田市十郎他・大蔵少書記官
東肇耕社、深津無一他・大蔵主税官
共墾社、天野武三郎・宇都宮警察署長
那須牧場、栃木県・鍋島幹県令
深川農場、深川亮蔵他・旧佐賀藩士
佐野農場、佐野常民・大蔵卿・博愛社社長
という、錚々たる方々です。印南さんと矢板さんはこの
ような方々の惣代として、県に国に陳情歎願をして
いたのです。 次号へ

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園
理事長・園長 福本光夫

二〇一六年度のご報告と展望

「今日」

今日、わたしはお皿を洗わなかった ベッドはぐちゃぐ
ちゃ

浸(つ)けといたおむつは だんだんくさくなってきた
きのうこぼした食べかすが 床の上からわたしを見て
いる

窓ガラスはよごれすぎてアートみたい /雨が降るまで
このままだと思う

人に見られたらなんていわれるか ひどいねえとか、だ
らしらないとか

今日一日、何をしていたの? とか

わたしは、この子が眠るまで、おっぱいをやっていた
わたしは、この子が泣きやむまで、ずっとだっこして
いた

わたしは、この子とかくれんぼした

わたしは、この子のためにおもちゃを鳴らした、それ
はきゅうっと鳴った

わたしは、ぶらんこをゆすり、歌をうたった

わたしは、この子に、していいこととわるいことを、
教えた

ほんとにいったい一日何をしていたのかな

たいしたことはしなかったね、たぶん、それはほんと
でもこう考えれば、いいんじゃない?

今日一日、わたしは 澄んだ目をした、髪ふわふわな、
この子のために

すごく大切なことをしていたんだって そしてもし、そ
ちのほうがほんとなら、

わたしはちゃんとしたわけだ (伊藤比呂美 訳)
冒頭は新聞に掲載されていたニュージーランドのある
お母さんの詩です。是非紹介したく掲載しました。

さて、「東日本大震災」から六年半になろうとして
います。被災された方々が希望のうちに一日も早くい
つもの生活を取り戻せますように、被災地復興の為に
働かれている方々、東京電力原子力発電所事故収束の
為に現場で労されている方々の心と体の健康が守られ
ますように祈ります。私達は、東京電力の原発事故後、
除染前の外遊びの中止、園庭や畑の土の移染、建物の
除染、専門家による学習会、給食用逆浸透膜浄水機を
設置しました。今も毎保育日、園庭中央の放射線量測
定、給食の毎食一食分の丸ごと検査(アジア学院ベクレ
ルセンターで)等、可能なことは子ども達の為に実施し
ております。放射能汚染による幼稚園附属山林観察園
とキャンプ場の施設が引き続き使用できない事を園児
達にはお詫びし、保護者の皆様のご理解・ご協力に感謝
申し上げます。また、二〇一六年度もスタッフ一同が
愛を持って、子どもたちの幸せのために努力できまし
たことを感謝をもってご報告します。

ところで、西那須野幼稚園は、西那須野教会附属「し
らゆり幼児園」から認可幼稚園として新たに出発して、
この地域教育の一端を担う働きをさせていただくよう
になり、今年で六十年目を迎えることができました。
隣の「こひつじ保育園」との幼保連携型の認定こども
園「西那須野幼稚園」として五年間実施して、一昨年
四月から新幼保連携型認定こども園に移行予定でした。
当時、本園のしょうがいのある子ども担当教員十五名、
教務四名おりましたが、新制度では担任以外の教諭は
四人までしか認められず、共働き保護者に代表される
二号認定のしょうがいのある子どもの補助金が国から
市町に移り、県の試算で減収七三〇〇万円となること
がわかりました。子ども達の最善の利益が担保出来な
いばかりか破綻のおそれもあり、認定を返上しました。
現在、幼保の子ども達は合同保育を実施しています。
園としては幼稚園型認定こども園を志向していきます。
制度は変わっても本園を信頼して毎日通園させて下さ
っている保護者の皆様にご感謝し、信頼に応えていく決
意は変わりません。

今年度は、「児童発達支援センターシャローム」を
栃木県の民間施設として初めて設立しました。内容は
①お子様の育ちの相談。育ちに心配のあるお子様、難
病のお子様、非定型な発達といわれるお子様を対象と
した専門的なケアと子育て支援、②お子様が生活して
いる乳幼児施設・小学校・特別支援学校等を専門スタ
ッフが訪問して施設と協力した多様なアプローチの出
来る「保育所等訪問事業」③通所していただく「児童
発達支援」④しょうがいのある小学生の放課後児童ク
ラブ 「放課後児童デイサービス」になります。これ
で、赤ちゃんから六年生までの全ての子どもたちが共

に育ち合う環境が整いました。

次に、危機管理としては、施設防犯システムの防犯カメラの一部を赤外線カメラに取り替えました。コンピューターへのアクセス管理と個人情報のクラウド保存を実施しています。

それから、子どもたちが、正解の無い時代、その時その時の適解を求めて善く生きるために、非認知能力といわれる折れない心(レジリエンス)、自己統制力(感情・意思・行動)、(価値観の違う人たちと)一緒にやり遂げる力が大切といわれています。地域社会が無くなった今、この基礎を培う土台としての遊びが、幼児期の保育に求められてきています。しかし、ロンドン大学のブラッチフォード教授によれば、遊びだけではダメで、みんなで乗り越える体験も大切であるとの報告をしています。本園も子ども達のこれからを考えて、行事の見直しも含め本園の教育要領の内容を改訂していきます。

最後に、地域の皆様のご協力についてご報告します。

本園は、子どもたちのより良い自己形成のために、地域や他団体の方からも沢山のご協力をいただいております(コミュニティー・インクルージョン)。中学生の職業体験、五軒町区の皆様とのクリスマス会。また、更生保護女性の会の皆様には「地域親」として子どもたちとの昼食会へのご協力をいただいてから十二年になります。YMCAとの協力による幼児から小学生までが実体験や遊びを通して育ち合うサタデークラブ(毎週土曜日に実施)は順調に十六年目を迎えました。また、小学一～六年生を対象とした放課後学童クラブが十一年目に入りました。

○視察・交流関係

教育実習生の他に、三島小・東小・西那須野中・三島中・那須拓陽高校・黒羽高校・那須高校の生徒、アジア学院学生、職員相互研修の小学校教諭、宇都宮大学の内地留学の小学校教諭の皆様。

○取材 OurPlanet-TV 代表・一橋大学客員准教授 白石草(しらいしはじめ)様

「失われた豊かなくらし～栃木県那須高原」

<http://www.ourplanet-tv.org/?q=node/2064>

(2017年度 西那須野学園報より)

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア学院校長 荒川 朋子

大津健一先生の帰天に際して

大津健一先生は2009年4月にアジア学院、アジア農村指導者養成専門学校の校長に就任した。201

2年6月、震災復興事業の最中に前々丹羽章理事長が急逝すると、理事長と校長を2015年まで兼務した。2015年度に私が校長に就いたので、その後は今年の6月22日にお亡くなりになるまで理事長を務めてくださった。合計すると先生がアジア学院でお働きになった年月は8年と2か月に亘った。

大津健一先生は1943年に大阪に生まれた。同志社大学の神学部で学ばれ、卒業後「最も貧しい人々のところで生きたい」と願い、ご家族と共に、当時日本で最も貧しい地域と言われていた福岡県の筑豊炭田のコミュニティーに移り住んだ。そこで約3年間、地元企業に勤めながら開拓伝道をした。当時の経験を後に先生は、「人々の貧しさ、苦しみを自らの生き方の原点と考える」と言っている。

筑豊で約3年を過ごした後、大津先生ご家族は岡山県に居を移し、倉敷教会で伝道師として奉仕する。その後将来アジアで働くことを志して、アメリカ・カリフォルニア州の太平洋神学校に進む。帰国後、スイス・ジュネーブの世界教会協議会の都市農村宣教委員会でインターンを経験するなどして日本に帰国。その後、日本クリスチャンアカデミー関西セミナーハウス主事、西陣市民センター館長などを経て、1986年からアジアキリスト教協議会(CCA)の開発と奉仕委員会担当幹事として、タイ・チェンマイで9年間を過ごす。

先生は、CCAでアジアの農村教会が行う開発プログラムの担当者のセミナーをアジア各国で開催し、アジア規模で保健、難民、障がい者問題を考えるプログラムを実施しながら「アジアの教会や民衆の置かれた現実を見た」と回想している。大津先生のご活躍を忍んで、先生の訃報はいち早くCCAに届き、先生がお亡くなりになった翌日の朝(6月23日)にはCCAはFacebookで訃報を流した。大津先生のご友人でもあった現アジアキリスト教協議会総幹事のマシュー・ジョージ・チュナカラ博士はそのメッセージの中で「大津健一牧師はアジアの教会に人間中心の開発に目覚めるように働きかけ、アジアの教会のエキュメニカル運動に貢献した。」と述べている。さらに数日後のFacebookでもチュナカラ博士は、「大津健一牧師は1980年代から90年代にかけて、アジアの教会に開発教育を積極的に紹介し、教会に連なる人々が、開発とは単に経済的な発展を意味するのではなく、人間、文化、政治、社会開発をも意味し、それらを通して人間の尊厳の回復と公正で持続可能な社会を意味することを理解できるように、弛みない努力をした。」と先生の貢献を評価している。

私は大津先生のCCA時代のことはほとんど存じ上げないのだが、大津先生がタイでの8年間で先生ご

自身の人生においてどれほど大きな影響を与えたかということをつらつら聞いていた。CCA時代に築かれた多くのアジアの教会との関係、友情、豊かな経験はその後日本に戻られて務められた日本キリスト教協議会の総幹事、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会広報委員長、日本クリスチャンアカデミー関東活動センター所長、そしてもちろんアジア学院校長、理事長の職においてフルに発揮されたと思っている。

大津先生は最も小さなものを愛する人だった。貧しい人、絶望の中でもがく人々、社会の陰でだれにも認められず称賛されずに生きている人々への深い思いは、生まれながらに先生の中にあつたものであるように感じた。また大津先生は正義の方だった。いつもは大変穏やかでいられる先生が、不正義について語る時には、目が厳しくなり、声の調子が強くなったのを私たちはよく覚えている。

大津先生の8年に亘るアジア学院在任期間は、学院の震災復興事業の5年がすっぽりとはまる。アジア学院は、先生の日本、アジアのキリスト教会における信用と先生のゆるぎない復興への思いのおかげで、見事に再生することができた。震災や放射能の影響を心配し、アジア学院の継続を危ぶむ声がささやかれた時も、先生は岩のようにどっしりと構えゆらぐことがなかった。

復興計画を打ち出した丹羽前々理事長と、大津先生は共に敬けんな神の信徒であったが、性格や物の進め方が全く違う、いわば正反対の2人であった。しかし大津先生は丹羽前々理事長と平和で良好な関係を保つことを常に心がけていたと思う。私は緊急事態や混乱の時にこそ、組織のトップが信頼関係のうちにあることがどんなに重要なことであるかを学んだ。アジア学院の震災からの復興はまさにこの二人の信頼関係、神様の道具として生きるという信仰、その延長線上として神様のご計画の器としてのアジア学院を継続させるという確信がなくては成されなかったと思っている。

大津先生との私自身との関係を振り返ると、私は実に赤面するような失礼な態度を先生に対して何度もとった。現場で待ったなしの問題をいくつも抱え、大津先生に対応や答えを詰め寄るのだが、時に先生は「答えを出さない」という答えを示された。それが理解できない私は、混乱し怒りすら覚えたこともあった。そんな私の無礼な態度を叱責するわけでもなく、静かに私たち職員の行動を大きく見守るのであった。今思えばこういった体験は今の私の問題対応能力の肥やしになっていたのだが、当時はそのように思えなかった。それでも、私を先生の後継者としてアジア学院の校長に推薦したのは、ほかでもなく大津先生だった。引

き継ぎの時も、「あなたの方が私よりもアジア学院をずっとよくご存じだから、何も言うことはありません。」とおっしゃって、私のことを100%信じてくださっていることが理解できた。それは、あなたならばどんなことでも対応できるでしょう、という言葉だと理解し、それが今の私の、特に困難な時の自信となっている。

先生がお亡くなりになってすぐに病院に駆けつけると、奥様が「大津はアジア学院の仕事を本当に楽しんでいました。どんな仕事もとても楽しんでいましたが、それは本当に大きな恵みだと思います。」とおっしゃった。先生と一緒に働いた8年を振り返ってみると、本当にそうだった。そして神様がなぜ、先生の最後のご奉仕の場として先生をアジア学院にお選びになったのか、少しだけ理解できた気がした。震災復興の達成という重責はあつたものの、先生は実にいつも嬉しそうに楽しそうにやさしい笑顔を浮かべて過ごされていた。それは先生がアジア学院で、先生が尊敬してやまない、愛してやまない、正義のために働く、最も小さき弱気ものを大切にする草の根の働き人と共にいることができたからだと思った。すべての人間が神様の愛を受け、あるべき姿で生き、働く理想のコミュニティをアジア学院に見ていたのかもしれないと思った。神様が大津先生の人生において最も適した時にアジア学院にお送りくださったことを心から感謝している。

YMCAだより

【YMCAイングリッシュ那須サマーパーティを開催しました！】

7/22（土）に、YMCAイングリッシュ那須に通っている子どもたち向けに、夏休み前のサマーパーティを行いました！子どもたち31名が参加してくれました。英会話講師のLiz、Josh、Nicoleと一緒に、普段のクラスとはまた違う雰囲気でもワイワイ楽しんでいきました。様々なクラスに通っている子どもたちが集い、歌や、O×ゲーム、ティッシュ箱積み上げゲーム、スナックタイムなどを楽しみました。子どもたちもいつものクラスとは違った様子で大はしゃぎでした！また、スナックタイムはTrifle buffeをみんなで食べました。スポンジケーキに、ホイップクリームやチョコレート、ジャ



ムなどをトッピングをしていきました。「Cup please」や「Chocolate please」、「Jam please」など、英語で先生とやりとりしながらトッピングしていました。子どもたち、英会話講師、アシスタントスタッフのそれぞれが、互いに交流し、サマーパーティを楽しめたのはとても素敵なことだと感じました。この度は素敵な時間のために、皆様のご協力・ご理解を頂きどうもありがとうございました。皆様実りある夏休みになるようにお祈りし、また2学期、クラスでお会いすることを楽しみにしております。

【とちぎYMCA・那須YMCAの8月の予定】

- ・8/1(火)～9/1(金) 南投YMCA(台湾)の学生がきよはらにて介護実習をします。
- ・8/16(水)～23(水) フィリピン ナボタスタラ交流キャンプ
- ・8/27(土) サタデークラブ@西那須野幼稚園(染め物体験)
- ・夏休み期間中、サマープログラムとしてキャンプやスクール、短期水泳など計11プログラムが実施されます。
- ・那須YMCAの英会話、サタデークラブ、西那須野幼稚園運動あそびなどは、8/31からスタートします。

【2017年度 那須YMCA年間計画】

【定例活動】

①西那須野幼稚園

- ・運動あそび 年中 毎週金曜日午前中(内海) 年長 毎週木曜日午前中(荒井)
- ・英語あそび 年長 毎週金曜日午前中(クリスティ)
- ・学童クラブ 運動あそび 小学生 毎週木曜日午後(荒井)
- ・サタデークラブ 年少～小学生 毎週土曜日・年間32回程度(荒井)

②YMCA英会話

- ・YMCAイングリッシュクラス(小学生・中学生・プライベートレッスン) ※一般生徒対象
- ・西那須野幼稚園課外英語クラス(西那須野幼稚園在園生対象)
- ・毎週月、水、木、金曜日(英語担当講師・補助村上)

③リーダー会

- ・Yキッズ リーダー会@国際医療福祉大学 毎週木曜日 18時半～(荒井)

④チャレンジプログラム(発達障害のある小学生・中学生のためのグループ活動)

- ・スマイリークラブ(小学生対象) 月1回(藤生・国際医療福祉大言語聴覚学科学生)

・IHAT(中学生・高校生対象) 月1回(藤生・国際医療福祉大言語聴覚学科学生)

【シーズン】

- 5月 新リーダー歓迎会
- 7月 英会話サマーパーティー
- 8月 英会話サマースクール
- 10月 英会話ハロウィンウィーク
- 11月 英会話保護者参観日
- 12月 英会話クリスマスパーティー
- 3月 YMCAリーダー卒業生を祝う会

ユースリーダーのつぶやきコーナー

1. 名前(リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCAに入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言



1. 須江 卓矢(すっちー)
2. 国際医療福祉大学・薬学科
3. 長野県
4. 大学に入って

ボランティアをしたいと思ったのと、子どもと関わってみたいと思ったから

5. 2年目の夏のキャンプ。初めてのキャンププロローグをやって、成功失敗合わせて大きな経験を積むことができたから。

6. 薬剤師

7. 様々な経験をありがとうございます。これからも関わっていききたいと思うのでよろしくお願いします。



1. 橋本裕翼(もっちゃん)
2. 国際医療福祉大学・薬学科
3. 福島県
4. キャンプに行きたかったから

5. たくさんありすぎるけど、共通してるのは、子どもたちと気持ちが共感出来たとき

6. 『ありがとう』といってもらえる仕事に就くこと

7. 居場所と笑顔を与えてくれてありがとうございます。

お願い

新年度が始まりました。会の運営のために年会費をお納めください。よろしく申し上げます。